

競技および審判上の注意

1 総合的な注意

- (1) 今大会は現行の日本バドミントン協会競技規則および同運営規定に準じて行う。
- (2) 本部の指示があるまでは、コート内での練習は認めない。
- (3) ~~会場担当校は本部の指示がある場合、主審、ラインズマン、また、必要に応じて得点表示係を出すこと。~~
- (4) 競技開始の指示があってから3分間以内にコートへ入らない場合は失格とする。
- (5) 主審は特にサーバー及びレシーバーにおける「フォルト」について判定しコールする。ただし、競技規則に關係する訴えに限り、主審が判断できないものは、競技役員長（レフェリー）に確認する。サービスジャッジについては主審と競技役員長（レフェリー）が協議して、必要があると認めた場合に限り任命する。試合中に審判上のことでトラブルが生じたときは、速やかに競技役員長（レフェリー）に報告を行い、その指示に基づいて行動する。
- (6) ゲーム途中（11ポイント）に60秒・各ゲーム間に120秒を超えないインターバルを認める。なお、インターバル時に指定区域内でアドバイスを受けることはかまわないが、コートには入れるのは同時に2名までとする。
- (7) 試合中のけがや病気の手当や処置について、コートに入ることを許されるのは、必要と認められる医療補助員と競技役員長（レフェリー）及び競技審判正副部長だけである。
- (8) 今大会はゲーム中の給水を条件付きで認める。
 - ①水分補給用のボトルや水筒は、各自が用意したケースまたはバッグに入れ使用する。
 - ②クーラーボックスのフロア内持ち込みは禁止とする。
 - ③氷嚢の使用は、インターバル中のみとし、使用後は保冷バッグに入れる。
- (9) 背中に県名、校名を明記、または明記されたゼッケンを着用する。
- (10) その他、諸注意を守る。
- (11) 個人戦についてはベスト64決定までを簡易ゲームとする。
 - ・簡易ゲームは、15点2ゲーム先取、延長ゲーム（21点まで）あり。
 - ・ゲーム中のインターバルは行わない。
 - ・7点付ゲームの場合、どちらかの選手が8点を先取した時に、チェンジを行う。
 - ・ゲーム間に60秒を超えないインターバルを認める。ベスト32決めからは正規ルールとする。但し、ゲームの進行状況により変更する場合がある。
- (12) コーチ席に入る者は競技規則を遵守するとともに、大会運営を優先する。選手がコーチ席に入る場合も、長ズボンまたはスカートを着用するなど、コーチと同じ服装規定が適用される。
- (13) 主審に質問出来るのは、学校対抗戦では監督と当該選手、個人戦では当該選手である。

2 学校対抗戦の注意

- (1) オーダー用紙は指示があったら、速やかに提出する。
- (2) メンバー変更は、大会当日の監督会議時に受け付ける。（それ以降は認めない）
- (3) ベンチに入れるものはメンバー表に掲載されている監督、コーチ、マネージャー、選手のみである。なお、マネージャーも選手として出場出来る。
- (4) 試合は第1ダブルス（D1）より始め、シングルス（S）、第2ダブルス（D2）の順で行うが、運営上、2コート又は3コートで並行して行うことがある。
- (5) うちわ等を使つての応援、リズムを取った手拍子、立ち上がったの応援は行わない。またベンチ及びギャラリーからのアドバイス、試合を行っている選手以外のコートへの立ち入り等は禁止する。
- (6) 先取マッチ（試合）方式で行う。
- (7) 各マッチ前に2分を超えないアップ時間を設ける。シングルスについては対戦相手と行う。シャトルは持ち寄りとする。

3 その他

感染症の対応については、原則、各中央競技団体のガイドラインや自治体の指針に従うこととし、その他、教育委員会や高体連事務局からの方針等があった際はそれに従うこととする。